

## 第4回 福島市役所新しい西棟建設市民懇談会 会議録

- 1 日 時 令和元年11月1日（金曜日） 14:00～15:40
- 2 場 所 福島市役所4階庁議室兼防災対策室
- 3 出席者 山口哲子会長、牧田実副会長、佐藤玲子委員、池澤龍三委員、菅野廣男委員、引地洲夫委員、河野由美子委員、（欠）阿部一善委員、藤田修一委員、安西由博委員、佐藤祀男委員、湯上要委員、原田紀之委員、木暮照正委員、霞朝子委員、阿部勢津子委員、菅野真委員
- 4 内 容
  - (1) 開会
  - (2) 議事
  - (3) その他
  - (4) 閉会
- 5 概 要 議事内容について事務局説明後、質疑応答、意見交換
- 6 委員の主な発言

○委員 説明資料22項にある「予約の取りやすい施設」とはどういうことか。

○事務局 会議室等において、部屋の規模を小さくする等、使い勝手が良い施設と捉えている。

○委員 第2回の懇談会において、学習センターの利用に際し、統一的な予約方法にしてもらいたいとの趣旨で、「予約を取りやすくすることを望む」という発言をした。

○委員 市民会館、中央学習センター、敬老センターを複合化するにあたり、予約の仕方を統一してほしい。

○事務局 施設の管理・運営の在り方については、今後協議を進めていきたい。

○委員 本庁舎に発電機はあるのか。

○事務局 現状では東棟に備えており、当初の計画においては西棟の分も賄うことを想定していたが、新しい西棟の検討においては、設備の見直しを行う必要性も出てくる可能性はあり得る。

○委員 事務室が110㎡との説明があったが、市民交流施設は中央学習センターの職員が管理・運営していくとの理解でよいのか。秋田市役所は7つに分けた地域でそれぞれの団体に管理・運営を委託し、事業については職員が行うという方針があったが、当懇談会においては、ハコモノに何を入れようという議論しか行われていない。政策的なものもなく、市民交流施設とは何かという部分の議論がなされていない。調理実習室において、調理台を部屋の片方にまとめ、会議室と兼用す

るといった提案がなされたが、調理台の利用にあたり、ある程度の距離感を必要とするといった現場の状況を、事務局がどれだけ理解しているのか疑問に感じる。

- 事務局 市民交流施設の管理・運営については現時点で決まっていなく、次回以降の懇談会で案を示していきたい。
- 委員 中央学習センターにおいては区域割をしていない中で、職員配置を行ってきた経過がある。その中で、新たな市民交流施設について市としての施策が明確でなく、単にハードものとしての事務局の担当者の考えが出てきているように感じる。中央学習センターを所管する生涯学習課の考えが出てこないのか。
- 事務局 生涯学習課として、中央学習センターが地区館の中央に位置することとは理解しているが、新たな西棟の管理・運営における中央学習センターの位置づけについては今後検討していきたい。
- 委員 新たな施設においては、生涯学習の施設ではなく、市民交流施設と考えている訳であり、市民交流施設とは何かというコンセプトがないと、単に中央学習センターというハコモノを西棟に持ってきたというだけで終わってしまい、市民懇談会を開催している以上は、市の施策として何か提言できるようにしないとイケないのではないかと感じている。
- 委員 施設の複合化においては、少子高齢化のなかで高齢者の健康寿命を延ばしていくのか、子育てを行う親の交流をどのように行うのか等、市民生活に寄与する施設になるよう、在り方については考える必要がある。また、災害時の窓口や期日前投票所の整備についてもきちんとしてほしい。
- 委員 新しい西棟について、市としてどのような位置づけにするかを皆で共有できていない中で、部屋の規模等の議論をしているが、本来は位置づけ等の議論をきちんとする必要がある。また、新たな市民交流施設のボリュームについて 1,500 m<sup>2</sup>程度との案を示されたが、共用部分や機械室等を含めると全体の延床面積がどの程度になると想定しているのか。
- 事務局 現計画を想定した中で、居室として利用できる面積を 1,500 m<sup>2</sup>程度と算出した。
- 委員 共用部分を含めると 6,000 m<sup>2</sup>程度となると見込まれるが、現在の 3 施設の合計面積が 8,500 m<sup>2</sup>程度ということからすると妥当な数値であろう。
- 委員 新しい西棟に避難所機能を設置すべきだと思うが、説明資料 33 項の市民交流施設のボリューム案の中では防災機能について触れられていないため、もう少し中身の濃い内容にしてもらいたい。

- 事務局 防災機能について、靴を脱いで利用する部屋やホールが避難所機能を有するものと捉えている。限られたスペースの中で、最大限のスペース確保を検討しているほか、構造上においてもフレキシブルなスペース利用ができるように検討を行っている。防災機能についても考慮したうえで、今般の案を示している。
- 委員 昨今新たに整備されている地区の学習センターの設備等が、生涯学習の中の学習センターの在り様を示していると理解していた。というのも、他地区の新しい学習センターには多目的ホールや図書室が整備されている。しかし、現在の中央学習センターには図書室がないこともあり、当懇談会で議論している3施設の複合化案には図書室機能は触れられていない。新たな市民交流施設の検討にあたっては図書室機能の議論を行う必要があると考える。前段で話したように、地区の学習センターに図書室を整備することで、福島市の生涯学習の在り様を示している一方で、中央の学習センター機能にはその在り様を無視する形で議論を進めることに疑問を感じる。生涯学習課としてはどのように考えているのか。
- 事務局 地区の学習センターにはたしかに図書室が整備されており、中央学習センターに図書室機能がないことはご指摘のとおりである。複合化を検討している施設でのスペース利用についても検討していく。
- 事務局 中心市街地の中での全体的な公共施設の機能と、新たな西棟に複合化される施設の機能とのすみ分けや整理についての議論を行っていただいているが、現計画ですでに市民交流施設は位置付けられており、全市民を対象とする施設であると整理がなされた。今般、そこに3施設を複合・統合化して新たな市民交流施設の整備に向けて議論を行っていただいているが、新しい西棟の整備にあたっては、「市民棟」というイメージをつくりあげたいとの思いで検討を進めている。中央地区の市民の方が利用されることはもちろん、全市内の市民の方の利用も想定している。市民の代表である議員の方による議会機能が整備されることから「市民棟」というイメージを作り上げるためにふさわしい施設としたい。
- 中央地区にはAO-Zや福島体育館、草心苑等、公共施設が近隣にある中で、必要な機能を取りこみつつも、機能を重複させずに、なるべくスマートな形で新たな西棟に整備したいという考えを持ちながら整理を進めてきた。
- 委員 中央地区には中央地区住民の交流する場がない。中央学習センターの利用対象者は全市民であるし、今議論している新しい西棟の市民交流施設の利用対象者も全市民である。いわゆる、中央地区住民のコミュニティの場所、情報が集まる場所がない。先の事務局からの説明でも、市民交流施設は中央地区のものではなく、全市民のためのものだという説明があり、中央学習センターも全市民のためのものであり、中央地区のための学習センターはないということになる。交流場所として考えた際に、市民アンケートの回答から、中央地区以外の市民は中央学習センターを利用したことがないとの回答が多かったにもかかわらず、未だに新たな市民交流施設については全市内の市民を対象にしているとの考えを示す行政側に対して中央地区のコミュニティを軽んじているのではないかと感じている。

- 委員 「公民館」という名称をなぜ「学習センター」という名称に変えたかという原点に立ち返ってもらいたい。当時、学習について、これからの時代は学校教育で終わらず、生涯かけて学習しなければならないという方針を立て、生涯学習を担う拠点として学習センターとされた。今の中央学習センターは環境が恵まれない点もあるが、生涯学習とは何かという原点に立ち返って考えていくことは必要ではないかと考える。
- 委員 この懇談会は3施設の統合・複合化することへの検討を行うものと理解している。そのうえで、新たな施設を利用して、これから何をしていくかが重要であると考えている。図書館の話題が出たが、新たな図書館がどこに整備されるかによって新しい西棟に整備する必要があるか否かの検討をしなければならないと思う。
- 委員 図書館再整備検討委員会の進捗状況についてはどのような状況か。
- 事務局 再整備を行う候補地の選定を行っている段階と聞いている。
- 委員 懇談会は次回で最後になるのか。
- 事務局 今年度予定している懇談会としては次回2月の開催を最後と考えているが、その後もご意見等を伺いたいと考えている。
- 委員 新たな市民交流施設のボリューム案による和室機能について、どのくらいのボリュームが最適か、また、高齢者の方の利用を想定した洋間の使い方等について関連団体として意見・要望を提出したいと考えている。
- 委員 次回懇談会にて諸元をまとめるにあたり、建物のボリュームと中身の機能を決めるうえで、両者を総合的に考えなければならないし、連携しなければならない部分であることとは理解するが、ボリューム案の落としどころとして、財源をどう確保するかという検討は必要となる。そのため、諸元をまとめるにあたっては大まかな建築コストやランニングコストを含めて、資料を提示する必要があるだろう。
- 委員 避難所機能の整備にあたり、簡易トイレや備蓄倉庫の整備は想定しているか。
- 事務局 現計画でも西棟地下に備蓄倉庫の整備は計画されていた。新しい西棟の建設にあたっては、防災機能の検討を進めていき、緊急時のトイレ利用についても西棟全体の利用方法のなかで検討を進めていきたい。